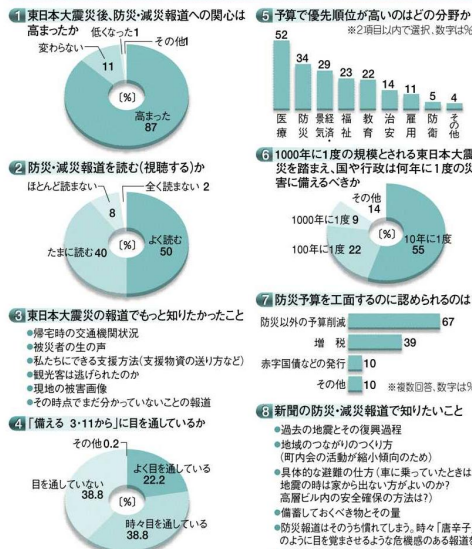




防災報道 関心高まる87%

防災・減災に関する市民アンケートまとめ 中部9県で100人に実施



市民100人に聞く

近いうちに東海、東南海、南海の二連動地震が発生し、未曾有の被害を受ける恐れがある中部地方。東日本大震災の経験を踏まえ、マスコミはどのような報道が求められているか。二十九日は、全国のメディアが防災報道のあり方を話し合う「マスコミ倫理懇話会」が名古屋市中区で開かれ、開催に合わせ、中部九県の市民百人と各県、名古屋市の防災担当者に防災・減災報道に関するアンケートを行った。(中村 誠 沢田 秋)

身近な対策「紹介して」

アンケートは月中旬から九月上旬にかけて、愛知、岐阜、三重、静岡、長野、福井、滋賀、石川、富山の九県で実施した。被災者の防止、減少、被害の軽減、減災報道について、つたてると回答。実際に90%以上は「身近な対策」を紹介して、つたてると回答。実際に90%以上は「身近な対策」を紹介して、つたてると回答。実際に90%以上は「身近な対策」を紹介して、つたてると回答。

「速報」「周知」に期待

「速報」「周知」に期待。災害と報道。自治体調査。自治体の防災担当者へのインタビュー。自治体の防災担当者へのインタビュー。自治体の防災担当者へのインタビュー。自治体の防災担当者へのインタビュー。自治体の防災担当者へのインタビュー。

「速報」は、災害発生直後の速報。災害発生直後の速報。災害発生直後の速報。災害発生直後の速報。災害発生直後の速報。災害発生直後の速報。災害発生直後の速報。災害発生直後の速報。災害発生直後の速報。災害発生直後の速報。

連載中の「備える 3・11から」に対するご意見・感想を電子メールか手紙でお寄せください。紙面作りの参考にします。メールは中日新聞社部@shakai@chunichi.co.jpへ。

次回は、防災・減災報道がテーマのマスコミ倫理懇話会の分科会を詳報します。

大地震の被害をなくせなくとも、減らすことはできる。そのためには防災や減災に普段から関心を持つことが大切だ。マスメディアが防災・減災報道をする際に何が重要なのか。名古屋大減災連携研究センターの福和伸夫教授（災害情報）に聞いた。

（聞き手・中村禎一郎）

「防災・減災報道の一番の課題は、

東海、東南海、南海の三連動地震は、マグニチュード（M）9を記録した東日本大震災に迫るM8・7が予想されている。
東海地方は東北地方より人口が多く、産業も集中していることを

名大減災連携研究センター

福和伸夫教授



マスコミの役割——識者に聞く

考えれば、今回の震災よりも大被害をもたらす恐れがある。それは国の将来を左右する大災害になるかもしれないということだ。

それなのに、防災や減災への思いが本気でないのではないかと感じる。自分の身の回りを振り返ると、

耳の痛い話伝えて

てみてほしい。家や会社の家具はきちんと固定されていますか？

食料はきちんと備蓄していますか？

できていない人が多いほど、本気ではないという証明だ。

次に、市民に耳の痛い報道が少なすぎる。例えば、阪神大震災で八割以上の人たちが建物内で圧死しているのに、その後も住宅の耐震化がなかなか進んでいない現状をなぜクローズアップしないのか。住民は避難勧告が出て、逃げないのかという点もだ。

今後、三連動地震が起こった際に、住民がどれだけ備えられているか、マスコミの役割は重要だ。

東日本大震災前に、そのための報道がどれだけできていただろうか。反省すべき点が多い。

市民に分かりやすく情報を伝えるために必要なことは、

防災・減災報道に携わる記者は基本的な知識を身につけるべき

だ。だから、三連動地震に備えるために国はどのようなべきか、現状の害の恐ろしさが実感できる。

自宅はジャングルに

9月は一家にとって、8日に梨奈さん、11日に幸さんが誕生日を迎えるめでたい季節だ。

両日とも特別なお祝いはいしなかったが、同じころ一家に1本のビデオ映像が届いた。原発3km圏内の一時帰宅の際、テレビ局の依頼で光一さんが撮影した福島県大熊

町や自宅の映像が、放送後に返却されたのだ。

番組ではほとんどがカットされたが、30分の映像は、すべてが一家の貴重な記録だ。「うわ、通学路だ。懐かしい」「この店かなり壊れちゃったね」。仮設住宅の居間で、一時帰宅に同行できなかった梨奈さんと沙也加さんが、半年ぶりの光景に自然と声を上げる。

映像が自宅に移り、いつもなら夏野菜が

いつの日か

原発1kmからの避難

実る庭の畑に、背丈以上の雑草が覆い茂るのを見ると、「え？ ジャングルみたい」。広くてきれいだっただけの風呂場は、少し開いていた窓から、土ぼこりが入り込んでいた。「放射能、すごいだろうね」。梨奈さんがつぶやくと、少し沈黙が続いた。場面が、放送時にも見た光一さんと幸さんへのインタビューに差しかかると、沙也加さんが言った。「お母さん、ここから泣くんだよ」。テレビには、マイクを前に

「今日はおきらめの日になりました」と目に手をやる幸さんが映った。今年の9月は、そんな映像が贈り物になってしまった。

福 (はなわ) さん一家 原発事故で大熊町から避難。光一さん(43)と妻幸さん(44)、次女沙也加さん(15)は愛知県豊田市で暮らした後、福島県会津若松市に移った。長女梨奈さん(19)は東京で大学生活。